シビルNPO連携プラットフォーム／since2014

CNCP通信

VOL.117／2024.1.5

CONTENTS

▼メッセージ
・年頭の挨拶
“地域社会”への関心を高めましょう：山本卓朗

▼CNCP設立10周年を迎えて
▽会員からの声（1）

▼土木のはなし
▽これも土木
・「これも土木」を発見する話（4）：野村吉春

▼フレンズコーナー
・土木と市民社会をつなぐフォーラムの思いと活動
：田中努

▼事務局通信

■今月の土木■

土木と市民社会をつなぐフォーラム

●フォーラムのロゴ

●土木と市民社会をつなぐフォーラムの現委員（50音順）

■土木と市民社会をつなぐフォーラム

私たち「土木と市民社会をつなぐフォーラム」は、土木学会の「シビルNPO推進小委員会」とCNCPの「ひろげる・つなぐ事業」のコラボで運営しているどこにも属さないバーチャルな組織です。メンバーは、写真の15名の委員と、この活動に賛同する他組織の個人数名です。
私たちは、2019年7月に発足準備を始め、2021年10月にスタートし、全国のつなぐ活動と土木に関わる社会課題への取り組みを探し、一般市民・学生・子ども向けの話題も企画して、CNCP通信とCNCPのホームページで紹介しています。（田中努）
https://npo-cncp.org/

▼フレンズコーナーに続く。

土木と市民社会をつなぐフォーラム

▼メッセージ

年頭の挨拶
“地域社会”への関心を高めましょう

（特非）シビル NPO 連携プラットフォーム 代表理事
山本 卓朗

明けましておめでとうございます。

昨年はコロナを克服しながらもインフルエンザが台頭し、依然として多勢のマスク姿を見かける一年でした。一方、外出を楽しむ機会が増え、繁華街も賑わいを取り戻し、観光地や交通機関もコロナ前に迫る賑わいをみせていますが、コロナで被った経済の打撃を回復するにはまだまだ時間がかかりそうです。

さて、昨年の年頭のご挨拶で、表題を

「“適疎”な地域づくり」を推進したい　ーもう一度過疎と過密を考えるー

として、地域社会の活性化をめざした CNCP の活動を紹介しました。今年も引き続いて、“地域社会”への関心を高めるべく活動をしていきたいと思います。

全国で人口減少が深刻化する中で、東京への一極集中はもちろん望ましいわけではありませんが、大都市への集中メリットも大きなものがあるわけで、地方においても県庁所在地などへの人口シフトが顕著になっています。かつての全総計画のように、あらゆる施策を通じて国土の均衡ある発展をめざすのは、国策として捨てることはないと思います。そして行政主体の過密対策や過疎対策も必要であることに異論はありません。しかし総人口が年に 80 万人も減少するなかで、住宅開発や産業誘致で定住人口の増加を図る旧来の地域施策が行詰まっていることは確かです。このため、私は取るべきもっとも現実的な施策として、急速な進展を見せる情報化技術を軸にして、都市と地方、地方同士の連携をはかる“交流人口を増やす新しい地域社会づくりへの大転換”を目指すべきと考えます。

最近、私は地域社会への特に若い方々の関心の高まりを感じています。なぜ関心が高まっているのか。かつて自分が暮らしたふるさとには両親や跡継ぎの兄さん家族が賑やかに生活していて、お盆に若い家族を伴って帰省した“ふるさと”が消滅してしまったこともあるのではと思います。

私たちは、30 年以上前になりますが、バブル崩壊後の団体旅行の崩壊を目の当たりにして、新生 JR で“新しい旅”の構想を考えました。廉価で長期滞在できる小規模なホテル群を開発し、夏休みを“新しい自分のふるさと”で生活してもらう取り組みです。その考えは、現在の地方と都市生活者をつなぐ交流の活性化とイメージが重なります。

この一年、仲間と適疎な地域つくりの議論を重ねてきましたが、適疎な地域のイメージとして、自分にとってウェルビーイングなところ、という答えに皆さん共鳴しました。そのイメージは人様々であり、まだまだ抽象の域をでませんが、私は、都会生活者の“ふるさと”を作ってほしいという気持ちを強く持っています。

さて、皆さんは、自分事としてこれからの地域社会にどのようなイメージをお持ちでしょうか？

添付した写真は、新しい旅開発で関係した群馬県新治村（現在はみなかみ町）のたくみの里の写真です。何回か訪れるうちに、私の“ふるさと”の一つとして思い出すところです。<https://takuminosato.jp/>

▼メッセージ

CNCP 設立 10 周年を迎えて（1）

CNCP 通信は、2014 年５月号の発刊から毎月欠かすことなく発行し、今度の４月号（Vol.120）で、ちょうど 10 年になります。これを機に、現在の正会員と理事・監事の皆様から、お言葉をいただきました。CNCP の設立準備から関わってこられた先輩方も数多くいらっしゃいます。当時を振り返った話、思い出、お祝い、将来に向けた期待など様々。是非お目通しを。
【掲載は届いた分の 50 音順】

●岩佐宏一（CNCP 常務理事/アイセイ株式会社/インフラテクコン実行委員会）

関係者のみなさま、この度は誠におめでとうございます。
「豊かなくらしの礎をこれまでも、これからも」。
CNCP は土木学会 100 周年で設立され、今年で 10 年を迎えます。現在 CNCP のプラットフォームを活用してインフラテクコン、インフラメンテ国民会議市民参画フォーラム、CSV 研究会、CCRC、うなぎ養殖整備、EBPM への RCT 活用の６つのプロジェクトが動いております。どのプロジェクトも社会的厚生を高め、暮らしの礎を将来に繋げる活動をしております。これらプロジェクトが継続的かつ、社会的な影響を与えることにより、社会がより発展できると信じております。引き続き CNCP にご興味いただき、是非ご一緒に活動を進めていただけますようお願いいたします。

●小重忠司（株式会社サンエコセンター）

CNCP 設立 10 周年おめでとうございます！
「うなぎ持続可能プロジェクト SEFI」の副代表を務めさせていただいております。10 年前、NPO 法人埼玉県建設発生土リサイクル協会の事務局長として CNCP に参加させていただきました。あれから月日が流れ、熱海の土石流災害をきっかけに盛土規制法が強化され、現在、（一社）全国建設発生土リサイクル協会でも活動しております。うなぎの問題も研究して分かった事ですが、自然の力に人間がどのように対応していくかがインフラを整備する我々の使命だと感じております。これからも CNCP がその一翼を担うことを期待し、お祝いの言葉とさせていただきます。

●小松淳（CNCP 理事/土木学会土木広報センター/日本工営ビジネスパートナーズ株式会社）

CNCP が土木学会 100 周年記念事業の一つとして設立されたことから、もともとつながりがあり、CNCP 通信へシリーズ「土木ということば」全 24 回（Vol.49：2018 年５月～Vol.72：2020 年４月）を連載させてもらったことは、調査研究の成果をわかりやすく伝える文章力の鍛錬の場になりました。その後、Web サイトや CNCP 通信を通じて、さまざまな角度から「土木のはなし」が語られ、「土木ということば」を真ん中に据えて活動が広がっていることをうれしく思っています。これからもぶれずに「土木」のことを語って、つながりを広げていきましょう。

●五艘章（NPO 法人建設技術監査センター）

CNCP には創設時の有岡・皆川理事の誘いを受けて、山本代表理事の「土木と市民社会をつなぐ」思想に賛同し３名の仲間が参加しました。特に青山俊樹座長による「性能発注勉強会」で、現在の公共工事発注方式の問題点の解決策を学ぶ事が出来た。今後は当 NPO の総力を結集して「性能を重視した PDB」の普及に取組みたい。

●世古一穂（CNCP 理事/NPO 法人 NPO 研修・情報センター）
私たちの NPO 法人が設立から 10 周年を迎えることを心からお祝い申し上げます。この節目の年に、理事として皆様にお礼を申し上げると同時に、私たちの成果と共に未来への展望を共有したいと思います。
私たちの NPO 法人は、土木と市民社会を結ぶ使命を掲げ、地域の発展と社会の福祉に貢献することを目指して活動してきました。これまでの 10 年間で、私たちは数々のプロジェクトを実施し、地域のインフラ整備や環境保護、災害復興などに取り組んできました。また、市民の皆様との協力や連携を通じて、地域の課題解決に向けた活動を展開してきました。
私たちの成功は、皆様のご支援とご協力のおかげです。地域の企業や団体、個人の皆様からの会費や、寄付やボランティア活動によって、私たちはさまざまなプロジェクトを実現することができました。心から感謝申し上げます。
さらに、私たちはこれからも地域の発展と社会の福祉に貢献するために努力を続ける必要があります。地域の課題に対して柔軟なアプローチを取り、持続可能な解決策を提案して参りましょう。また、市民の皆様との連携を深め、より多くの人々が参加できる活動を展開していきましょう。
私たちの NPO 法人は、これからも地域の発展と社会の福祉に向けて努力を続けたいものです。皆様のご支援とご協力をいただきながら、より良い社会の実現に向けて邁進してまいりましょう。
心より感謝申し上げます。

●多和田俊介（NPO 法人社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会/(株)アイエスエス）
当研究会は社会インフラに関する調査、研究および政策提言等を通じ、インフラの利益増進に寄与することを目指して、現在は２つの分科会を中心に活動しております。「インフラメンテナンス分科会」は、メンテナンスの重要性を分かり易く地域住民に伝えていくことを目指し、身近にある「橋」の清掃、親子で一緒に学ぶインフラ講座開催といった活動を行っています。「インフラ・リデザイン分科会」では自動運転本格化で変わる生活と社会インフラの検討、社会課題とその対応策に関する調査等を通じ、身近なインフラのリデザインを検討しています。CNCP とは各活動、イベント等積極的に情報共有を図り、今後も協力して一緒に業界全体を盛り上げていきましょう！

●辻田満（NPO 法人シビルサポートネットワーク）
2014 年 CNCP 設立は、遡る事 5 年前の 2009 年某小委員会のワーキンググループ「NPO 調査研究グループ」の活動に端を発します。ワーキングメンバーである内藤堅一氏、有岡正樹氏、駒田智久氏、比奈地信雄氏、松本健一氏らが主力として活動を開始し、私もメンバーとして加えて頂きました。2012 年には CNCP の前身組織となる建設系 NPO 連絡協議会を立ち上げて建設系 NPO 中間支援組織設立構想を提唱し、土木学会 100 周年記念事業の一環として認定され CNCP 設立に至りました。この 5 年間の活動は報告書に詳しくまとめられており、当時事務局としてご尽力いただいた内藤堅一氏、有岡正樹氏、駒田智久氏、比奈地信雄氏、松本健一氏らの並々ならぬ熱い想いが伝わって参ります。

●皆川勝（東京都市大学）
シビル NPO 連携プラットフォームや土木学会の成熟したエンジニアの方々の活動が発展して、CNCP が設立された時、種々のお声がけをいただき参画できたこと、大変嬉しく、その後の小生の教育活動に大きな影響を受けました。一部の方とオーストラリア視察に行けたことも良い思い出です。社会の変革に前向きになれない体制を打破して、前進されることを祈念します。

●山崎晶（CNCP 理事/株式会社熊谷組）
かつて CNCP の委員会に出席した際、お名前は聞いていたが元土木学会会長の山本卓朗代表自らも参加され議論に加わり積極的に発言されていた。自分のような若輩者が、山本代表や土木界で経験豊かな方々と同じ席で様々なお話を聞け、意見が交換できることに、大変驚いた。人は、社業を行うだけでなく、名著の読書や師と仰げるような先輩方との交流により、自身の成長ができると思う。CNCP はまさにそのような活動の場を提供しており、私自身、賛助会員である弊社の職員には積極的に CNCP での活動参加を勧めている。

▼土木のはなし/これも土木

「これも土木」を発見する話（4）

（特非）シビル NPO 連携プラットフォーム　理事
ＮＰＯ法人州都広島を実現する会　事務局長
野村　吉春

●はじめに

今回のこの「これも土木」というシリーズは、土木への新たな魅力発見を目的としています。

市民社会に向けて、**「土木は身近なところにあって、日々の暮らしに大切な役割を果たしているんだ！」**という理解を頂き、建設界に向けては、土木が専門化・高度化してゆく中で、**「土木の幅広い役割を再発見してほしい！」**との希望を託しています。

「見た目での認識」というルーツから論じた第２話と第３話は如何でしたか？

筆者が想定するに、前回第３話「この国のかたち」と、その前第２話「土木工事の現場」の話はやや極端なので、「この二つの話を一つのルーツで理解することは出来ん！」との指摘もありましょう。そこで、今後の第 4～5 話でもって、その中間を丁寧に埋めるように努めます。

第４話は、「地域のかたち（前編）」＝「これも土木」を筆者と共に論考しましょう。

読者各位が、今回の論考を通して、「今後の土木の盛衰を占うほどの重要性」を確認・発見して頂ければ、筆者としてこの上ない喜びとするところです。

●第２話の主な論点と論考

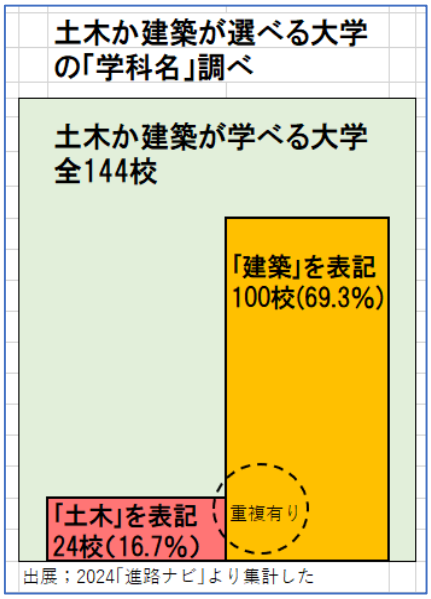
まずは、第２話**「身近な土木工事の現場＝これが土木」**について、もう一度整理し論考します。論点を並べ出すと 10 も 20 もあるわけですが、ここでは敢えて数点に絞り込んでいます。

	主な論点	論　考
1	**「土木」って何なの？**	➢ **「土木＝土木の工事現場、土木作業員のこと」**・・・という理解が一般的で、市民社会の半数以上、女性に限れば 8 割以上に及ぶのではないでしょうか。 ➢ 新聞や TV 報道で報じられる事件での、「職業；土木作業員」という表現が、悪い印象に繋がっています。
2	**「土木」を知らない**	➢ 「土木」は単語として捕え難く、一般市民になじみが薄い VS「建築」の方が理解されやすい。（＊2.1） ➢ **一般市民は、自分の住んでいる近場の土木工事しか知らず、他の市町村には関心が無い。**（＊2.2）
3	**土木は無駄なのか**	➢ **「土木＝公共事業＝無駄な事業が多い」・・・という理解が浸透し、インフラ慨成論にも繋がっている。**（＊2.3） ➢ 「都市部では何もやることはない VS 地方部では今も無駄な事業をやっている」・・・との疑念を抱かれている。
4	**見た目の印象づけ**	➢ 子連れの母親の言う「〇〇くんも・・・」の話は、「子どもに対する土木の悪い印象づけ」として、また「土木への間違った理解」を与えており、非常に問題です。 ➢ **子どもへの「土木教育」のあり方の重要性**を、改めて再考する必要があります。（＊2.4）

5	**バカがやる仕事という職業観**	➢ 土木作業の「土工」には専門性を問われないが、重機、鉄筋、型枠・・・等々には技能士、検定試験などを要するが、（興味の無い）一般市民は何も知りません。
6	**就職情報サイトの不人気度**	➢ 甚だ不快感をいだくのはこれ。就活情報サイトにおける、**「底辺職業ランキング」に建設・作業員が何と「１位」**として U-tube にアップされていることです。（＊2.5） ➢ ・・・が、ここは一旦冷静に受止めて置くことが重要です。

●少し補足します。

（＊2.1）　まず最初に、土木学会において、「土木」という語源を深く研究され、我が国の「国語辞典の改訂」に至るまで、粘り強く実現された関係者に厚く敬意を表します。

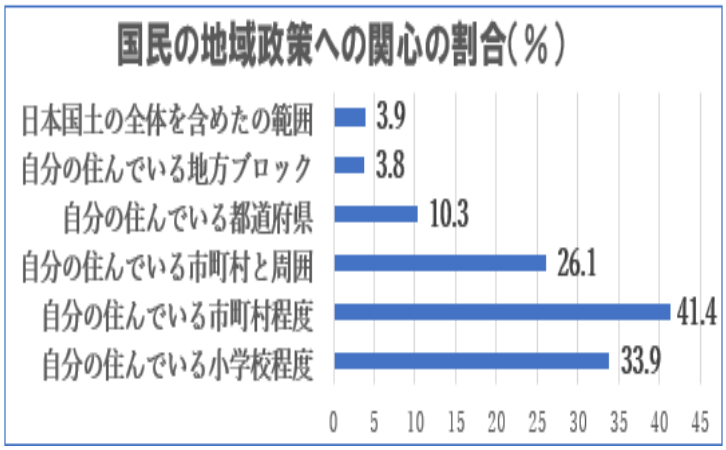


大学の学科名調べ

「土木」の表記が消えて久しいなか、最新の進学情報によれば、「土木か建築が選べる大学」が 144 校あることが判明。
「都市」「環境」「デザイン」・・・とキラキラ感が目立つ中で、「土木」の名称を表記する大学が 24 校、参考までに「建築」という表記は 100 校という状況。「土木」は一時期よりも復活傾向か？

（＊2.2）　地域への関心

普通の市民は、地域のことをどのような範囲まで知っているかを、皆さんご存じですか？
右の図は、土木学会誌（令和３年８月号）に掲載されている表です。



内閣府の世論調査を元に作成したとの注記ですが、これに回答できる人は、ある程度意識の高い人だろうと考え、この数値は半分以下に割り引く必要があります。
つまり、筆者の肌感覚では、市民は通常「自分の行動範囲」しか関心がなく、自分の行かない地域のことは知らないし、関心がありません。

（＊2.3）　インフラ概成論

「インフラ概成論」とは、インフラは十分整っており、今後の予算や投資は不要という考え方です。
国民への説明を補うべく、「筆者の日常的な感想」を列記します。
① 「土木＝公共事業＝無駄な事業が多い」との表現は、マスコミの人気取りにされている。
② 若者よりも高齢者や女性に、「福祉重視⇒無駄な公共事業」への批判となる。
③ 「都市部 VS 地方部」では、事業への採算性の捉え方が異なるようだ。
④ 筆者の住む中国地域では、山陽の都市部以外では高速道路の未成区間が多く、暫定２車線とか、時速 70ｋｍまたは 60ｋｍ規制が大半。こんな代物を高速道路と呼ぶ国は日本だけ。
⑤ 「人口減少＝公共投資が不要」・・・こんな発想では貧乏国にいち早く脱落するコト必死。

（追記）　後で、日本と海外のインフラの比較を別途（＊3.1）で述べるので参照されたい。

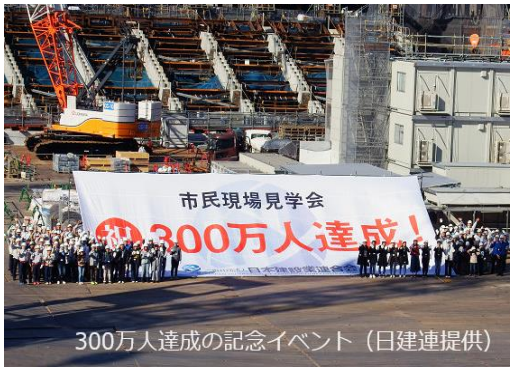
（＊2.4）　土木教育のあり方

「土木の進化・発展＝優秀な人材確保＝専門教育の改革＋小中学生への取り組み」・・・という発想は、既に土木学会を中心に、各支部や各委員会でも幅広く共有され、各種の活動が実施されています。

市民現場見学会

また、日建連でも 2002 年から「土木工事の現場見学会」を開始して 15 年目の 2017 年には新国立競技場の現場で 300 万人を達成した。次の目標を「参加者 500 万人」に設定しているところである。

現在、**我国の小中校生は 920 万人なので、30～50%の参加割合になる？・・・ぼちぼちその成果が現れてくれることを期待したい。（重要）**



300万人達成の記念イベント（日建連提供）

（＊2.5）　土木・建設作業員が「底辺職業ランキング１位」の U-tube 画像

データーは就活情報サイトから得ている。

ユーチュバーの何方かのカウント数の稼ぎに協力する結果となるがやむを得ません。

甚だ不愉快だが、こうした言論を建設界として一旦、飲み込んで置かないといけません。（重要）

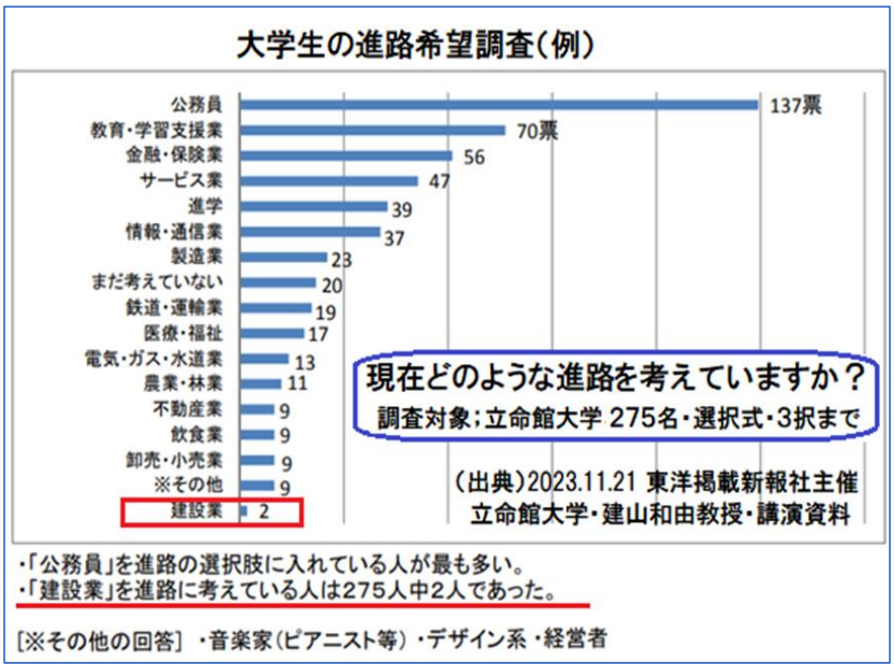
大学生の進路希望調査より

昨年の 11 月 21 日の東洋経済新報社（主催）の、「建設界の DX 推進に関する Web 講座」を受講した際に、冒頭に登壇された建山和由教授が「大学生の進路希望調査」の資料を提示された。

この調査では、「大学生 275 名の内、建設業を進路に考えている学生はたったの２名であった」・・・との説明には唖然とするほか無かった。

筆者は「これは何かの間違いであろう」と考えるけれども、建設業が下位に位置することは確かなのだろう。

建設界の「人材不足問題」は超・喫緊の課題ですが、併せて「優秀な人材確保」が出来ないと、この業界は確実に衰退する。
（ここの危機感が重要！）



●第３話の主な論点と論考

次に、第３話の「この国のかたち＝これも土木」についてもう一度、整理し論考します。

	主な論点	論　考
1	**目に見える営み**	➢ （先達に敬意を払うべく・・・）狭い国土や急峻な地形を克服した、我国の土木技術は素晴らしい。 ➢ しかし、**世界に目を移せば、90 年代以降の日本の停滞した 30 年間に、海外では著しい土木技術の進展と巨大な事業が展開され**、これが地域経済を牽引し、国力の強化をもたらしてきた。（＊3.1）
2	**目に見えない営み**	➢ 「土木」とは何かという問いに、以下の**四つの捉え方を試みました。** ➢ **一つ目は「範囲の問題」**。前掲に述べたように一般の市民は自分家の近くの土木工事しか知らないし、見ることのない他所には興味が無いという実態があること。 ➢ **二つ目は「土木作業員」だけ？**　どんな工事も「起案する人」「予算化する人」「調査や設計する人」「工事を請負う人（契約事務等）」「作業員や資材、機材の手配をする人」・・・見えない多数の営みを知らない。 ➢ **三つ目は「土木」の広がり**。「橋は建築家が設計しているのよ！」・・・こういう声に絶句するが、「技術士の建設部門」だけでも、11 の選択科目があり、色々な業種が含まれるが、一般市民には知るよしもない。（＊3.2）
3	**Ｓｕｐｒａに目を向けよ**	➢ **四つ目の目に見えない営みが Supra です。** ➢ 前回お示しした土木の三角形の仕組み。我々の社会の上部構造＝Suprastructure に目を向けて頂きたいのです。 ➢ **建設界が、社会の下部構造＝Infrastructure だけを語るより、その上部で営まれる経済、観光、交流、文化、教育・・・等々 Suprastructure への無限循環を語らないと機能や意味が伝わりません。**
4	**土木に戦略があるのか**	➢ 「戦略なき土木って、いったい何ですか？」 ➢ **「土木の戦略＝Strategystructure」とは、この国への思いであり、国家戦略、地域戦略などを指し、「この事業は何のために行うのかという物語」のことです。** ➢ **我々に最も欠けているのが土木の戦略です。**（＊3.3）
5	**「この国のかたち」を論じよう**	➢ 「この国のかたち」とは、狭い範囲で使うと「国土計画」という風に理解されるでしょう。 ➢ しかし、**筆者の描く「この国のかたち」とは、「国土計画」という「かたちのあるモノ」を描く前に、論じるべき「目には見えないコト」があるという発想です。** ➢ そのためには、日本の置かれている地政学、環境、気候、人文・社会、この国の歴史・・・を押さえ、「政治、生活、経済、文化、教育、情報・・・」の在り方を論じながら、「この国のかたち」を描いていきたい！ ➢ 盛り沢山のようですが、目的や内容に応じて、**「重要な論点を絞って論じる」**ことが必要でしょう。
6	**「土木の物語」を語れ**	➢ 前掲の話を産業界で語れるのは、**総合性のある建設界をおいて、他に誰が語れるのでしょうか？** ➢ 大変に無理な注文のように見えますが、**「土木が市民から信頼を受ける」には、未来に希望が持って、楽しく、魅力的な「土木**

		の物語」が必要だと考えます。 ➢ 前回の司馬遼太郎氏の「土木学は・・・」という発言の主旨は、前掲のような土木人への使命感を語っています。

●少し補足します。

（＊3.1）　海外の建設界は、高速道路、新幹線、橋梁、ダム、港湾、再生エネルギー、・・・あらゆる分野でビッグプロジェクトへの挑戦が行われてきました。このような趨勢を大多数の国民は知らないし、建設界は知っていても語らず・・・という、「この国の閉塞感」に筆者は不快感を抱きます。

参考までに、ダムと橋梁(吊橋)の２例の世界順位を見て下さい。
出展は Wikipedia です。

中国が目立つのですが、新幹線の総延長は日本の 10 倍。
下図は世界最長の海上橋は中国の**港珠澳大橋**（こうじゅおうだいきょう）49.968ｋｍです。

○ダム（高さ）の世界順位

順位	ダム	高さ	所在国	型式	竣工年
1	ログンダム	335	タジキスタン	アース	工事中
2	双江口ダム	312	中国	ロックフィル	工事中
3	錦屏一級ダム	305	中国	アーチ	2014年
4	ヌレークダム	300	タジキスタン	アース	1980年
5	両河口ダム	295	中国	ロックフィル	2023年
6	小湾ダム	294	中国	アーチ	2002年
7	白鶴灘ダム	289	中国	アーチ	2021年
8	溪洛渡ダム	286	中国	アーチ	2013年
9	グランド・ディクサーンスダム	285	スイス	重力	1961年
10	バクティアリダム	275	イラン	アーチ	工事中
参考	黒部ダム	186	日本	アーチ	1963年

○橋梁（吊橋：最大支間長）の世界順位

順位	橋名	最大支間長(m)	国名	完成年
1	チャナッカレ橋	2,023	トルコ	2022
2	明石海峡大橋	1,991	日本	1998
3	楊泗港長江大橋	1,700	中国	2019
4	南沙大橋(坭洲水道橋)	1,688	中国	2019
5	西候門大橋	1,650	中国	2009
6	グレートベルトイースト橋	1,624	デンマーク	1998
7	オスマン・ガジ橋	1,550	トルコ	2016
8	李舜臣大橋	1,545	韓国	2012
9	潤揚長江大橋	1,490	中国	2005
10	杭瑞高速洞庭湖大橋	1,480	中国	2018

（＊3.2）　技術士の建設部門とは

建設部門の選択科目は、11 科目（土質及び基礎、鋼構造及びコンクリート、都市及び地方計画、河川・砂防及び海岸・海洋、港湾及び空港、電力土木、道路、鉄道、トンネル、施工管理、建設環境）。これは、建設界だけが知っており、**一般市民の誰でも「建築士」を知っているが、「技術士」は知らない。**

（＊3.3）　建設業界は日本の縮図

最後に、「建設業界の動向とカラクリ」（阿部守著）より、第 1 章のタイトル及び引用です。
「建設業界は日本の縮図そのもので、日本にいま一番欠けているのは日本全体をどのようにもっていくのかというビジョンですが、建設業界に求められるのもまったく同じです。建設業界の将来像を描くことが求められています。」・・・これは、今回の第 4 話の論旨を言い当てています。

＊次回の予告 ； 第 5 話は今回の続編として、「地域のかたち（後編）」＝「これも土木」をなるべく具体的にローカルな事例を通じた「解決編　を目指す」ことで、一旦中締めとします。

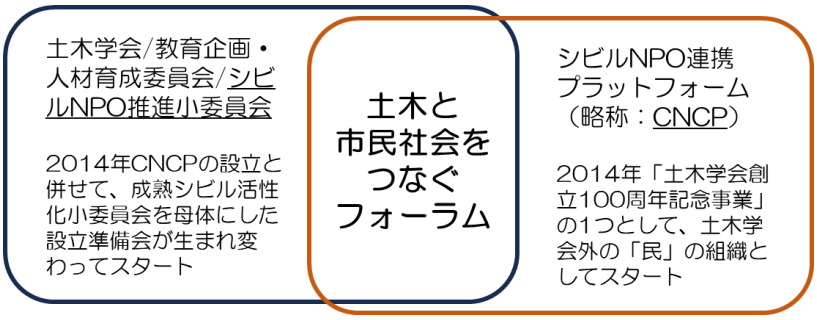
▼フレンズコーナー

土木と市民社会をつなぐフォーラムの思いと活動

土木と市民社会をつなぐフォーラム 副委員長
（特非）シビル NPO 連携プラットフォーム 常務理事/事務局長
メトロ設計(株) 取締役
田中 努

■土木と市民社会をつなぐフォーラムとは

私たちのフォーラムは、右図のように、土木学会の「シビル NPO 推進小委員会」と CNCP の「ひろげる・つなぐ事業」のコラボで運営しているどこにも属さないバーチャルな組織です。メンバーは、それぞれから参加した委員と、この活動に賛同する他組織の個人数名です。



■フォーラムの思い

フォーラムの思いは、次の２つです。

①土木技術者（シビル・エンジニア）の特に OB が、NPO 等の大小様々な団体で社会課題の解決に取り組んでいるが、それらの連携を強めて NPO 活動を推進したい。

②土木と市民の間にあるかい離を縮めること。土木は、資源が少なく自然災害が多い日本の、経済力と市民生活の向上に欠かせない社会資本整備を、戦後の復興から欧米に追い付け追い越せと、「産官学」がスクラムを組んで進めてきました。しかし、このスクラムに「市民」が入っていなかったために、情報と価値観の共有が不足し、市民・国民のための社会資本整備でありながら敵対関係になったこともありました。そのようなかい離を縮めるために、土木と市民社会をつなぎたい。

そして、私たちは、次の状態になって、持続することをめざします。

- 市民が土木の全体を（事業も人も、良いところも悪いところも）概ね正しく理解し、様々なことに、市民が自分の意見を言えて、それらがある程度、インフラ整備（維持・更新）や防災・環境整備等の事業に反映されていく状態。
- さらに、土木のファンがいて、楽しんだり、自ら土木に関係する仕事に就く人が居る状態。

■フォーラムの活動

私たちフォーラムの活動は、私たち自身が、直接、個々の社会課題の解決に取り組むのではなく、

1）解決に向け取り組んでいる人たちを「つなぐ」

2）解決に向け取り組んでいる人たちと市民を「つなぐ」

・・で、思いを現実化して行きたいと考えています。

この「つなぐ」活動は、次表のイメージです。

私たちは、上記 1）2）の人たちと「つなぐ」手段として、土木学会のホームページより、CNCP のホームページと CNCP 通信の両者の活用が向いていると考えています。

2023 年 5 月から稼働している現在の CNCP のホームページは、シビル NPO 推進小委員会とその後のフォーラムの活動で考えてきた「つなぐ」方法を実現させるために、2022 年度にフォーラムで新しく計画・設計したものです。

３つの「つなぐ」活動

つなぐ方法	フォーラムとして取り組むこと	フォーラムに参加した仲間が、個々の自組織の活動を継続しつつ、取り組むこと
1．フォーラム仲間の情報共有を容易にする	・フォーラムの仲間およびフォーラム外で「土木と市民社会をつなぐ活動」をしている組織・団体・個人の活動の情報を集約し、共有する。 ・仲間と活動の DB 等の作成・維持も必要。	・フォーラムの DB に、自組織の活動情報を登録する。 ・自組織の活動に役立つ仲間を探して、情報共有・連携・協働する。
2．フォーラム仲間の個々の組織の活動を支援する	・登録した「土木と市民社会をつなぐ活動」の内、優れた活動を、フォーラム内外に、広く、紹介する。 ・フォーラムの仲間に共通する課題解決のために、有志を集めてWG等で、検討する。	・自組織の活動の継続・向上のための課題解決を、仲間に提案し、共に改善・解決する。 ・仲間のイベント参加や情報配付・広報など、市民への呼びかけを、自組織の対象市民へも紹介し、輪を広げる。
3.「市民」との相互コミュニケーションを可能にする	・フォーラムの仲間とフォーラム外で行われている「土木と市民社会をつなぐ活動」の情報を、市民のニーズに合わせた切り口で、再発信する。	・自組織の活動で把握している市民のニーズを、フォーラムに提供して、フォーラムの仲間と共有する。

■土木学会の小委員会は４月に移管されます

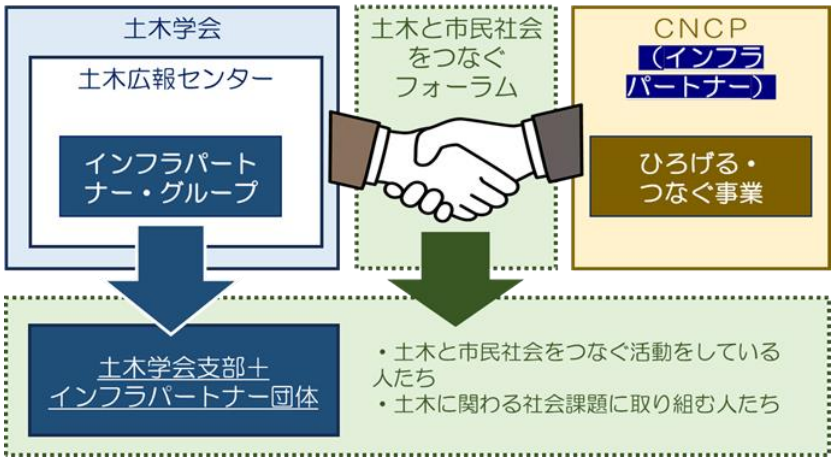
シビル NPO 推進小委員会は、2024 年４月から、新たな「インフラパートナー・グループ」として、土木広報センターに移管されます。

「インフラパートナー」とは、土木学会が 2020 年度に制定した制度で、地域に根差したより密接な『連携』という観点から、インフラに関わる市民・団体とパートナーシップ（合意書）を結び、土木学会各支部を交え、連携を図る仲間のことです。CNCP もインフラパートナーの仲間です。

協定に沿って、下表の活動を推進します。

●土木学会側	・パートナーが開催するイベントへの参加及び後援・広報 PR、講師等専門家の派遣 ・パートナー活動を土木学会の広報ツールにより対外的に発信 ・本部委員会、支部及び他団体との交流・情報交換の場の提供など
●インフラパートナー側への協力要請	・学会のイベントへの参加・PR ・地域インフラ改善のための提案 ・本部委員会・支部との交流など

「インフラパートナー」は、フォーラムが考えている「つなぐ」べき人たちですので、移管後も、フォーラムの活動は、右図のように、基本的に変わりません。



■参考：これまでの紹介記事

CNCP 通信に、フォーラムとインフラパートナーの紹介をしています。

・2021.4/VOL.84：インフラパートナーシップ協定と・・・
・2022.5/VOL.97：CNCP とシビル NPO 推進小委の協働の実践
・2022.6/VOL.98：「土木と市民社会をつなぐフォーラム」運営会議の委員
・2023.5/VOL.109：いよいよ新サイトがオープンします！

CNCPは、
あなたが参加し、
楽しく議論し、
活動する場です！

▼事務局通信

■12月の実績

●第116回経営会議
開催日・場所：12月12日（火） リアル会議
議題：サロンの計画／各事業の進ちょくと予定

■１月の予定

●第117回経営会議
開催日・場所：1月12日（金） リアル会議
議題：インフラパートナーグループの運営企画／サロンの計画／各事業の進ちょくと予定

■現在の会員と仲間の数

●会員：賛助会員30／法人正会員10／個人正会員27／合計67
●仲間：サポーター107／フレンズ120／土木と市民社会をつなぐフォーラム15／インフラパートナー18／合計260

お問い合せは下記まで

特定非営利活動法人
シビルNPO
連携プラット
フォーム

●登録事務所
〒110-0004
東京都台東区下谷
１丁目11番15号
ソレイユ入谷9F

事務局長 田中努：
cncp.office@gmail.com
ホームページ URL：
https://npo-cncp.org/

●CNCPの活動には下記の賛助会員の皆さまのご支援をいただいています（50音順・株式会社等省略）。

アイ・エス・エス／アイセイ／安藤・間／エイト日本技術開発／エヌシーイー／奥村組／オリエンタルコンサルタンツ／ガイアート／熊谷組／建設技術研究所／五洋建設／佐藤工業／シンワ技研コンサルタント／スバル興業／セリオス／第一復建／竹中土木／鉄建建設／東亜建設工業／東急建設／ドーコン／飛島建設／土木学会／西松建設／日本工営／パシフィックコンサルタンツ／フジタ／復建エンジニアリング／復建調査設計／前田建設工業（以上30社）

土木と市民社会をつなぐフォーラム
インフラパートナー
JSCE 土木学会